



さて、香月が丘が住宅地として造成されたのは、昭和30年代から40年代にかけてである。東



すぐ近くに「憩いの空間」と「文化拠点」



窪川中学校。夕方には、部活動の元気な声が聞こえてくる

別であったのかもしれない。香月が丘という美しい地名は、実は江戸時代か、それ以前からすでにあったのだそう。当時は、まだ人家も無い丘陵地帯であり、時のお殿様が「狩り」を楽しむところであった。狩りの担当役人である「山番」が常駐していたという。狩りを終えたお殿様には、ここから眺める月が、格別であったのかもしれない。

さらには、この地区に活気をもたらしてくれているのは、窪川中学校の生徒たちの明るい声である。特に、夕方の部活動の時間になると、グラウンドから元気な声が聞こえてくる。散歩中の住民が思わず足を止めて、若さみなぎる生徒たちの活発な姿に目を細めている風景をよく見かける。一時は700人はいた生徒も、300人ほどに減ってしまったとはいえ、若者のエネルギーは衰えない。地域に学校があるということは、目に見えない力を、そこに住む人々に提供しているのだということを、あらためて感じる。

京であれば多摩ニュータウン、大阪であれば万博近辺の千里ニュータウンなどが次々と開発されていった頃と、時を同じくしている。したがって、それらの都市型ニュータウンにみる、住民の高齢化という問題に、香月が丘もまた直面している。ただ、少しづつ若い世代も居住するようになっていることは、この地区に光を照らす。



中学校の南側に、ケーブルテレビのスタジオ

町のうごき	(10月30日)		人口		前月比		出生		死亡		転入		転出		適正值(mg/l)		11月6日						
	男	女	計	世帯数	男	女	計	男	女	計	男	女	計	リン酸	硝酸	アンモニウム	アニオン活性剤	化学的酸素消費量					
	9,044	10,157	19,201	8,801	-8	-13	-21	6	2	8	15	14	14	≤ 5.0	≤ 0.5	≤ 5.0	≤ 1.0	≤ 10.0	0.236	0.853	測定値以下	0.650	2.487

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)